



サービスの管理

Cisco Unified CallManager Serviceability のサービス管理では、Tomcat Java Webserver に関連付けられている機能サービスやネットワーク サービスと `servlet` を操作します。機能サービスは Cisco Unified CallManager 関連の機能の使用を可能にするもので、ネットワーク サービスはユーザ側のシステムが機能するために必要です。

サービスまたは `servlet` に異常がある場合は、アラーム モニタにアラームが書き込まれます。このアラーム情報を表示した後で、サービスのトレースを実行できます。サービスと `servlet` は、[Trace Configuration] ウィンドウの異なるトレース レベルに表示されます。

この章では、サービスと `servlet`、Service Activation、Control Center について説明します。この章は、次の項で構成されています。

- [機能サービス \(P.2-2\)](#)
- [ネットワーク サービス \(P.2-8\)](#)
- [Service Activation \(P.2-13\)](#)
- [Control Center \(P.2-13\)](#)
- [サービス設定のチェックリスト \(P.2-14\)](#)
- [参考情報 \(P.2-14\)](#)

機能サービス

Cisco Unified CallManager をインストールしても、システムで機能サービスが自動的にアクティブになるわけではありません。機能サービスとは、Cisco Unified CallManager 機能を使用するのに必要な Cisco Unified CallManager 関連のサービスのことです。Cisco Unified CallManager Serviceability では、機能サービスのアクティブ化、開始、停止ができます。機能サービスをアクティブにすると、関連付けられたサービス パラメータを Cisco Unified CallManager の管理ページで変更できるようになります。Cisco Unified CallManager をアップグレードする場合、アップグレードの前にシステム上でアクティブにされていたサービスは、アップグレード後に自動的にアクティブにされて開始します。

アクティブ化によってサービスがオンになって開始します。[Service Activation] ウィンドウでサービスをアクティブにすれば、[Control Center—Feature Services] ウィンドウでサービスを開始する必要はありません。何らかの理由でサービスが開始しない場合は、[Control Center—Feature Services] ウィンドウでサービスを開始する必要があります。

[Service Activation] ウィンドウでは、Cisco Unified CallManager Serviceability によって、機能サービスが次のグループに分類されています。

- CM サービス (P.2-2)
- CTI サービス (P.2-5)
- CDR サービス (P.2-5)
- データベースと管理サービス (P.2-6)
- パフォーマンスおよびモニタリングのサービス (P.2-6)
- セキュリティ サービス (P.2-7)
- ディレクトリ サービス (P.2-7)

[Control Center—Feature Services] ウィンドウでは、Cisco Unified CallManager Serviceability によって、サービスが同じグループに分類されて [Service Activation] ウィンドウに表示されます。



ヒント

サービスのアクティブ化に関する推奨事項については、P.2-13 の「[Service Activation](#)」および『*Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド*』の「[機能サービスのアクティブ化と非アクティブ化](#)」を参照してください。

CM サービス

Cisco CallManager

Cisco CallManager サービスは、ソフトウェア限定のコール処理に加え、Cisco Unified CallManager 用のシグナリングおよびコール制御の機能も備えています。



ヒント

このサービスをアクティブにする前に、Cisco Unified CallManager の管理ページの [Cisco Unified CallManager の検索と一覧表示 (Find and List Cisco Unified CallManagers)] ウィンドウに、Cisco Unified CallManager が表示されていることを確認してください。サーバが表示されていない場合、このサービスをアクティブにする前に Cisco Unified CallManager を追加します。Cisco Unified CallManager を追加する方法については、『*Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド*』を参照してください。

**ヒント**

Service Activation で Cisco CallManager サービスまたは CTIManager サービスを非アクティブにした場合、サービスが非アクティブになった Cisco Unified CallManager はデータベースから削除されます。したがって、Cisco CallManager は Graphical User Interface (GUI; グラフィカル ユーザー インターフェイス) に表示されなくなるため、Cisco Unified CallManager の管理ページの設定操作で Cisco Unified CallManager システムを選択できません。その後、同じ Cisco Unified CallManager システムのサービスを再度アクティブにした場合、データベースは再び Cisco Unified CallManager のエントリを作成し、サーバ名または IP アドレスに「CM_」というプレフィックスを追加します。たとえば、IP アドレスが 172.19.140.180 であるサーバで Cisco CallManager サービスまたは CTIManager サービスを再度アクティブにすると、Cisco Unified CallManager の管理ページに「CM_172.19.140.180」と表示されます。これで、Cisco Unified CallManager の管理ページで、新しい「CM_」プレフィックスが追加された Cisco Unified CallManager を選択できるようになります。

次のサービスを使用するには、Cisco CallManager サービスをアクティブにする必要があります。

- [Cisco CTIManager \(P.2-4\)](#)
- [CDR サービス \(P.2-5\)](#)

Cisco TFTP

Cisco Trivial File Transfer Protocol (TFTP) は、FTP の簡易版である TFTP に準拠したファイルを作成および提供します。Cisco TFTP は、組み込み型コンポーネント実行可能ファイル、呼び出し音ファイル、およびデバイス コンフィギュレーション ファイルを提供します。

コンフィギュレーション ファイルには、デバイス (電話機およびゲートウェイ) の接続先となる Cisco Unified CallManager のリストが含まれています。デバイスがブートすると、コンポーネントは Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) サーバにネットワーク構成情報をクエリーします。DHCP サーバはデバイスの IP アドレス、サブネット マスク、デフォルト ゲートウェイ、Domain Name System (DNS; ドメイン ネーム システム) サーバアドレス、および TFTP サーバの名前またはアドレスを応答します。デバイスは、TFTP サーバにコンフィギュレーション ファイルを要求します。コンフィギュレーション ファイルには、Cisco Unified CallManager と、デバイスがそれらの Cisco Unified CallManager に接続するときを経由する TCP ポートのリストが含まれます。

Cisco Messaging Interface

Cisco Messaging Interface を使用すると、Simplified Message Desk Interface (SMDI) に準拠した外部ボイス メッセージ システムと Cisco Unified CallManager を接続できます。CMI サービスは、ボイス メッセージ システムと Cisco Unified CallManager 間の通信を可能にします。SMDI は、電話システムが、着信コールをインテリジェントに処理するために必要な情報をボイス メッセージ システムに提供する方法を定義します。

Cisco IP Voice Media Streaming App

Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスは、Cisco Unified CallManager で MTP、会議、および Music on Hold (MOH; 保留音)、および Annunciator を使用するための音声メディア ストリーミング機能を提供します。Cisco IP Voice Media Streaming Application は、Cisco Unified CallManager からのメッセージを、IP Voice Media Streaming ドライバにリレーし、それによって RTP ストリーミングを処理します。

Cisco CTIManager

CTI Manager には、アプリケーションとのインターフェイスとなる CTI コンポーネントが含まれます。CTI Manager を使用すると、アプリケーションはクラスタ内のすべての Cisco Unified CallManager のリソースと機能にアクセスでき、フェールオーバー機能を向上できます。1 つのクラスタ内で 1 つまたは複数の CTI Manager をアクティブにできますが、個々のサーバに存在できる CTI Manager は 1 つだけです。アプリケーション (JTAPI/TAPI) は複数の CTI Manager に同時接続できますが、メディアの停止により 1 つのデバイスを開くために同時に使用できるアプリケーションは 1 つだけです。

Cisco Unified CallManager Attendant Console Server

Cisco CallManager Attendant Console Server サービスは、Cisco Unified CallManager Attendant Console クライアントとパイロット ポイントに対応した中央集中型のサービスを提供します。Attendant Console クライアントの場合、このサービスはコール制御機能、Cisco Unified CallManager ドメイン内のすべてのアクセス可能な回線の回線状態情報、およびディレクトリ情報のキャッシュを提供します。パイロット ポイントの場合、このサービスはハント グループにリストされた電話番号への自動リダイレクションと、Cisco Unified CallManager で障害が発生したときのフェールオーバーを提供します。

Cisco Extension Mobility

Cisco Extension Mobility サービスは API を使用して、デバイス上でログイン、ログアウト、およびクエリを実行します。電話機は HTTP を使用して、ログインまたはログアウトの要求を Cisco Extension Mobility アプリケーションに送信します。アプリケーションは要求を処理し、その要求を Cisco Extension Mobility サービスに転送します。サービスはデータベースに接続し、必要なデータベース内のレコードをアップデートして、ログインまたはログアウト情報をアップデートします。システムは電話機にリセットを発行し、電話機はリセット時にログインまたはログアウトプロファイルを取得します。

Cisco Extended Functions

Cisco Extended Functions サービスは、Quality Report Tool (QRT) を含む一部の Cisco Unified CallManager 機能をサポートします。個々の機能の詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』および『Cisco Unified IP Phone Administration Guide for Cisco Unified CallManager』を参照してください。

Cisco Dialed Number Analyzer

Cisco Dialed Number Analyzer サービスは、Cisco Unified CallManager Dialed Number Analyzer アプリケーションをサポートしており、Cisco Unified CallManager Serviceability からアクティブ化および非アクティブ化できます。

このアプリケーションをアクティブにすると、多量のリソースが消費されます。クラスタ内のすべてのノードでこのサービスをアクティブにするのはお勧めできません。このサービスは、オフピーク時のみ、またはコール処理アクティビティが少ないクラスタのノードの 1 つだけでアクティブにすることをお勧めします。

Cisco DHCP Monitor Service

Cisco DHCP Monitor Service は、データベース テーブルにおける IP Phone の IP アドレス変更をモニタします。変更が検出されると、/etc/dhcpd.conf ファイルが変更され、DHCPD デーモンが再起動します。

CTI サービス

Cisco IP Manager Assistant

このサービスは、Cisco Unified CallManager Assistant アプリケーションをサポートしています。Cisco IP Manager Assistant をアクティブにすると、マネージャとそのアシスタントはより効率的に協業できます。Cisco IP Manager Assistant は、プロキシ回線サポートと共有回線サポートの2つの操作モードをサポートしています。Cisco IP Manager Assistant サービスは、1つのクラスタ内でプロキシ回線サポートと共有回線サポートの両方をサポートしています。『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。

機能は、コールルーティング サービス、マネージャのための電話機能の拡張、および主にアシスタントが使用するデスクトップインターフェイスで構成されます。

サービスにより、マネージャへのコールが代行受信され、事前に設定されたコールフィルタに基づいて、選択したアシスタント、マネージャ、またはその他のターゲットにルーティングされます。マネージャはコールルーティングを動的に変更できます。たとえば、電話機のソフトキーを押すことで、マネージャはサービスにすべてのコールをアシスタントにルーティングするように指示し、これらのコールのステータスを受け取ることができます。

Cisco Unified CallManager ユーザには、マネージャとアシスタントがいます。ルーティング サービスはマネージャ コールを代行受信し、それらを適切にルーティングします。アシスタント ユーザは、マネージャの代わりにコールを処理します。Cisco IP Manager Assistant は、マネージャ用の機能とアシスタント用の機能から構成されます。

Cisco WebDialer Web Service

Cisco WebDialer には、クリックツードイヤル機能があります。この機能を使用すると、Cisco Unified CallManager クラスタ内のユーザは、Web ページやデスクトップアプリケーションから、クラスタの内側または外側にいる他のユーザに対してコールを開始できます。Cisco Web Dialer は、クラスタ内のユーザ同士が相互にコールできる Web ページです。Cisco Web Dialer には、WebDialer servlet と Redirector servlet の2つのコンポーネントがあります。

Redirector servlet には、サードパーティ アプリケーションから Cisco Web Dialer を使用する機能が用意されています。Redirector servlet は、Web Dialer ユーザに対して適切な Cisco Unified CallManager クラスタを検索し、要求をそのクラスタ内の Web Dialer にリダイレクトします。Redirector 機能は、Simple Object Access Protocol (SOAP) ベースの Web Dialer アプリケーションでは使用できないため、HTTP/HTML ベースの Web Dialer クライアント アプリケーションだけに適用されます。

CDR サービス

Cisco SOAP - CDRonDemand Service

Cisco SOAP - CDRonDemand Service は、SOAP/HTTPS ベースのサービスで、最初のノードである CDR リポジトリ ノードで実行します。このサービスは、ユーザ指定の間隔（最大1時間）で CDR ファイル名リストの SOAP 要求を受信し、要求で指定された期間に適合するファイル名のリストを返します。また、この要求内で指定された、特定の CDR/CMR ファイルとファイル名および転送方式 (sftp/ftp、サーバ名、ログイン情報、ディレクトリ) の配布要求も受信します。

HTTPS/SOAP インターフェイスを使用して CDR データにアクセスするサードパーティの課金アプリケーションを使用する場合は、このサービスをアクティブにします。

Cisco CAR Web Service

Cisco CAR Web Service は CAR のユーザ インターフェイスをロードします。CAR は、CDR データを使用して CSV レポートまたは PDF レポートを生成する Web ベースのレポート作成アプリケーションです。

データベースと管理サービス**Cisco AXL Web Service**

Cisco AXL Web Service では、Cisco Unified CallManager データベース エントリを変更し、AXL を使用するクライアントベースのアプリケーションからストアードプロシージャを実行できます。

Cisco Bulk Provisioning Service

Cisco Bulk Provisioning Service は、最初のノードでのみアクティブにできます。Cisco Unified Bulk Administration Tool (BAT) を使用して電話機とユーザを管理する場合は、このサービスをアクティブにする必要があります。

Cisco TAPS Service

Cisco TAPS Service は、Cisco Unified CallManager Auto-Registered Phone Tool をサポートします。このツールを使用すると、音声自動応答装置 (IVR) のプロンプトに応答した後で、自動登録された電話機にカスタマイズした設定をアップロードできます。

このサービスは、最初のノードでアクティブにします。ツール用のダミー MAC アドレスを作成する場合は、同じノードで Cisco Bulk Provisioning Service をアクティブにしてください。

**ヒント**

Cisco Unified CallManager Auto-Register Phone Tool は、Cisco Customer Response Solutions (CRS) に依存します。設計どおりにツールを動作させるには、CRS のマニュアルに記載されているとおりに CRS サーバが設定および実行されている必要があります。

パフォーマンスおよびモニタリングのサービス**Cisco Serviceability Reporter**

Cisco Serviceability Reporter サービスは、次の日次レポートを生成します。

- Device Statistics
- Server Statistics
- Service Statistics
- Call Activities
- Alert
- Performance Protection レポート

このサービスは、クラスタ内のすべての Cisco Unified CallManager ノードにインストールされます。Reporter は、ログに記録された情報に基づいて、1 日に一度レポートを生成します。Cisco Unified CallManager Serviceability 内で Reporter が生成したレポートには、[Tools] メニューからアクセスできます。

各要約レポートには、その特定のレポートの統計情報を示すさまざまな図が含まれています。

Cisco Serviceability Reporter には、次の 2 つのサービス パラメータがあります。

- RTMT Report Generation Time : 午前 0 時からの時間 (分単位)。レポートは最終日のこの時刻に生成されます。
- RTMT Report Deletion Age : レポートをディスクに保持する必要がある日数。指定した日数を過ぎたレポートは、システムにより削除されます。

Cisco CallManager SNMP サービス

このサービスは、Cisco Unified CallManager で利用可能なプロビジョニングと統計情報への SNMP 経由のアクセスを提供します。

セキュリティ サービス

Cisco CTL Provider

この Cisco CTL Provider サービスは、ローカル システム アカウント特権で実行され、クラスタのセキュリティ モードを非セキュア モードから混合モードに変更するためのクライアント側プラグインである Cisco CTL Provider ユーティリティと連携して動作します。プラグインをインストールすると、Cisco CTL Provider サービスは CTL ファイル用に、クラスタ内のすべての Cisco Unified CallManager サーバと Cisco TFTP サーバのリストを取得します。CTL ファイルには、クラスタ内のセキュリティ トークンとサーバのリストが含まれます。

このサービスをアクティブにすると、Cisco CTL Provider サービスがデフォルトの CTL ポートである 2444 に復帰します。ポートの変更方法については、Cisco Unified CallManager のセキュリティに関するマニュアルを参照してください。クラスタ全体のセキュリティ モードを非セキュア モードからセキュア モードに変更するには、Cisco CTL Client をインストールして設定し、このサービスをアクティブにする必要があります。

Cisco Certificate Authority Proxy Function (CAPF)

Cisco Certificate Authority Proxy Function (CAPF) サービスは、CAPF アプリケーションと連携して動作し、設定に応じて次のタスクを実行できます。

- サポートされる Cisco Unified IP Phone モデルにローカルで有効な証明書を発行する。
- SCEP を使用して、サポートされている Cisco Unified IP Phone モデルの代わりにサードパーティ認証局に証明書を要求する。
- 電話機の既存の証明書をアップグレードする。
- トラブルシューティングのために電話機の証明書を取得する。
- ローカルで有効な証明書を電話機から削除する。



(注) RTMT でリアルタイム情報を表示すると、Cisco Certificate Authority Proxy Function (CAPF) サービスは、最初のノードについてのみ表示します。

ディレクトリ サービス

Cisco DirSync

Windows バージョンの Cisco Unified CallManager と異なり、Cisco Unified CallManager 5.1 には Embedded ディレクトリが含まれていません。このため、Cisco Unified CallManager データベースにすべてのユーザ情報が保存されます。たとえば Microsoft Active Directory または Netscape/iPlanet Directory などの統合企業ディレクトリを Cisco Unified CallManager とともに使用する場合、Cisco DirSync サービスによってユーザデータが Cisco Unified CallManager データベースに移行されます。Cisco DirSync サービスは、企業ディレクトリのパスワードとの同期は行いません。

ネットワーク サービス

ネットワーク サービスは、Cisco Unified CallManager のインストール時に自動的にインストールされ、Cisco Unified CallManager システムがクラスタを機能させるのに必要な、データベースやプラットフォーム サービスなどのサービスを提供します。これらのサービスは Cisco Unified CallManager の基本機能に必須なので、[Service Activation] ウィンドウではアクティブにできません。必要に応じて、たとえばトラブルシューティングの場合は、[Call Control—Network Services] ウィンドウでネットワーク サービスを停止してから開始（または再開）する必要があります。

[Call Control—Network Services] ウィンドウに示されているとおり、ネットワーク サービスは、Cisco Unified CallManager のインストール後に自動的に開始します。

[Control Center—Network Services] ウィンドウでは、Cisco Unified CallManager Serviceability によって、サービスが次のグループに分類されています。

- [プラットフォーム サービス \(P.2-8\)](#)
- [DB サービス \(P.2-9\)](#)
- [CM サービス \(P.2-9\)](#)
- [パフォーマンスおよびモニタリングのサービス \(P.2-11\)](#)
- [Service Activation \(P.2-13\)](#)
- [SOAP サービス \(P.2-11\)](#)
- [バックアップと復元のサービス \(P.2-12\)](#)
- [CDR サービス \(P.2-12\)](#)

プラットフォーム サービス

A Cisco DB

A Cisco DB は、Progress データベース エンジンとして機能します。

A Cisco DB Replicator

A Cisco DB Replicator サービスは、クラスタの最初のノードと後続のノードとの間で、データベースの設定およびデータの同期をとります。

Cisco Tomcat

Cisco Tomcat サービスは、Cisco Unified CallManager 5.1 で Web サーバをサポートします。

SNMP Master Agent

このサービスは、エージェントプロトコルエンジンとして動作し、SNMP 要求関連の認証、許可、アクセス制御、およびプライバシー機能を提供します。

MIB2 Agent

このサービスは、RFC 1213 で定義されている変数への SNMP アクセスを提供します。このアクセスにより、たとえば、システム、インターフェイス、IP などの変数を読み書きします。

Host Resources Agent

このサービスは、ストレージリソース、プロセステーブル、デバイス情報、インストールソフトウェアベースなどのホスト情報への SNMP アクセスを提供します。

Native Agent Adaptor

このサービスは、SNMP 要求を、システム上で動作する別の SNMP エージェントに転送します。

System Application Agent

このサービスは、システム上にインストールされ実行されているアプリケーションへの SNMP アクセスを提供します。これによって SYSAPPL-MIB が実装されます。

Cisco CDP Agent

このサービスは、Cisco Discovery Protocol を使用して Cisco Unified CallManager ノード上のネットワーク接続情報への SNMP アクセスを提供します。

Cisco Syslog Agent

このサービスは、さまざまな Cisco Unified CallManager コンポーネントが生成する syslog メッセージの収集をサポートします。

Cisco Electronic Notification

このサービスは Cisco Unified Communications Operating System Administration と連携しているので、ユーザはソフトウェアアップデートに関する電子メールを送信することができます。

Cisco License Manager

Cisco License Manager は、お客様が購入し、使用しているライセンスを追跡します。ライセンスのチェックインとチェックアウトを制御し、ライセンスの発行や再要求を処理します。Cisco License Manager は、Cisco Unified CallManager アプリケーションの管理に加え、IP Phone ユニットライセンスの数を管理します。電話機の台数がライセンス数を超えた場合、管理者にそれを通知するアラームが発行されます。このサービスはすべてのノードで動作しますが、ライセンスの発行と再要求は、最初のノード上のサービスが行います。

Cisco Certificate Expiry Monitor

このサービスは、Cisco Unified CallManager によって生成された証明書の期限切れを定期的に確認し、期限日が近づいたときに通知を送信します。

DB サービス

Cisco Database Layer Monitor

Cisco Database Layer Monitor サービスは、データベース レイヤのさまざまな面をモニタします。このサーバは、変更の通知とモニタリングを行います。

CM サービス

Cisco CallManager Admin

Cisco CallManager Admin サービスは、Cisco Unified CallManager を設定するためのインターフェイスを備えた Web アプリケーションである Cisco Unified CallManager の管理機能をサポートします。このサービスは、Cisco Unified CallManager のインストール後に自動的に起動し、ユーザは Web ページにアクセスできるようになります。サーバ上でこのサービスを停止すると、そのサーバをブラウズする際に、Cisco Unified CallManager の管理ページの GUI にアクセスできなくなります。

Cisco CallManager Serviceability

Cisco CallManager Serviceability サービスは Cisco Unified CallManager Serviceability をサポートします。Cisco CallManager Serviceability は、Cisco Unified CallManager の問題をトラブルシューティングするためのインターフェイスを備えた Web アプリケーションです。このサービスは、Cisco Unified CallManager のインストール後に自動的に起動し、ユーザは Web ページにアクセスできるようになります。サーバ上でこのサービスを停止すると、そのサーバをブラウズする際に、Cisco Unified CallManager Serviceability GUI にアクセスできなくなります。

Cisco CallManager Personal Directory

Cisco CallManager Personal Directory は、Cisco Personal Directory をサポートします。

Cisco Log Partition Monitoring Tool

Cisco Log Partition Monitoring Tool サービスは、Log Partition Monitoring 機能をサポートします。この機能は、事前に設定したしきい値とポーリング間隔を使用して、1 つのサーバ上（またはクラスター内のすべてのサーバ上）のログパーティションのディスク使用状況をモニタします。

Cisco CDP

Cisco CDP は、Cisco Unified CallManager を他のアプリケーションにアドバタイズします。その結果、たとえば SNMP や CiscoWorks2000 などのアプリケーションが、Cisco Unified CallManager のネットワーク管理タスクを実行できます。

Cisco Trace Collection Servlet

Cisco Trace Collection Servlet は、Cisco Trace Collection Service と連携してトレース収集をサポートします。この機能により、ユーザは RTMT クライアントを使用してトレースを表示できます。このサービスは、Cisco Unified CallManager のインストール後に自動的に開始します。サーバ上でこのサービスを停止すると、そのサーバ上でトレースの収集と表示ができなくなります。

Cisco Trace Collection Service

Cisco Trace Collection Service は、Cisco Trace Collection Servlet と連携してトレース収集をサポートします。この機能により、ユーザは RTMT クライアントを使用してトレースを表示できます。このサービスは、Cisco Unified CallManager のインストール後に自動的に開始します。サーバ上でこのサービスを停止すると、そのサーバ上でトレースの収集と表示ができなくなります。



ヒント

Cisco Trace Collection Service の再起動が必要な場合は、初期化の時間を短縮するため、Cisco Trace Collection Servlet の前に再起動することをお勧めします。

Cisco RIS Data Collector

Real-time Information Server (RIS) は、デバイス登録ステータス、パフォーマンス カウンタ統計情報、生成された重大なアラームなど、リアルタイムの Cisco Unified CallManager 情報を保持します。Cisco RIS Data Collector サービスは、Real-Time Monitoring Tool (RTMT)、SOAP アプリケーション、Cisco Unified CallManager の管理、および AlertMgrCollector (AMC) などのアプリケーションのインターフェイスを提供し、クラスター内のすべての RIS ノードに格納されている情報を取得します。

Cisco AMC Service

Real-Time Monitoring Tool (RTMT) のために使用されるこの AMC (Alert Manager and Collector) サービスは、以前の Windows バージョンの Cisco Unified CallManager で Cisco RIS Data Collector サービスのコンポーネントとして存在していました。このサービスを使用すると、RTMT によってクラスタのノードに存在するリアルタイム情報を取得できます。

Cisco Extension Mobility Application

Cisco Extension Mobility サービスでは、Cisco エクステンション モビリティ機能の電話設定に対する期間制限などの、ログイン設定を定義できます。Cisco エクステンション モビリティ機能では、Cisco Unified CallManager クラスタ内のユーザは、クラスタ内の Cisco Unified IP Phone 7960/7940 にログインすることにより、その電話機を一時的に自分専用として設定できます。ユーザがログインすると、ユーザの、個人の電話番号、短縮ダイヤル、サービス リンク、およびその他のユーザ固有のプロパティが電話機で使用されます。ログアウト後は、電話機は元のユーザ プロファイルを使用します。

Cisco CallManager IP Phone Service

Cisco CallManager IP Phone Service をアクティブにすると、Cisco Unified CallManager の管理ページで設定した Cisco IP Phone サービスのサービス URL が初期化されます。

パフォーマンスおよびモニタリングのサービス

Cisco CallManager Serviceability RTMT

Cisco CallManager Serviceability RTMT サービスは、Cisco Unified CallManager Real-Time Monitoring Tool (RTMT) をサポートします。このツールは、トレースの収集と表示、パフォーマンス モニタリング オブジェクトの表示、アラートの操作、デバイスやシステム パフォーマンス、CTI アプリケーションなどのモニタを行います。

Cisco RTMT Reporter Servlet

Cisco RTMT Reporter servlet は、RTMT のレポートを公開します。

Cisco Tomcat Stats Servlet

Cisco Tomcat Stats Servlet を使用すると、RTMT または CLI によって、Tomcat perfmon カウンタをモニタできます。このサービスによる CPU 時間などのリソースの消費が多すぎる場合以外、このサービスを停止しないでください。

SOAP サービス

Cisco SOAP-Real-Time Service API

Cisco SOAP-Real-Time Service API では、デバイスと CTI アプリケーションについてのリアルタイム情報を収集できます。このサービスは、サービスをアクティブ化、開始、および停止するための API も提供します。

Cisco SOAP Performance Monitoring API

Cisco SOAP Performance Monitoring API サービスでは、SOAP API を使用してさまざまなアプリケーションのパフォーマンス モニタリング カウンタを使用できます。たとえば、サービスごと、CPU の使用状況ごと、Cisco Callmanager カウンタごとにメモリ情報をモニタできます。

Cisco SOAP-Log Collection API

Cisco SOAP-Log Collection API サービスでは、ログ ファイルの収集と、リモート SFTP サーバでのログ ファイルの収集のスケジュールを行います。収集できるログ ファイルの例には、syslog、コア ダンプ ファイルなどがあります。

バックアップと復元のサービス

Cisco DRF Master

Cisco DRF Master Agent サービスでは、DRF Master Agent を GUI または Command Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) で使用して、必要に応じて、バックアップのスケジュール、復元の実行、依存関係の表示、ジョブのステータスの確認、およびジョブの取り消しを行います。Cisco DRF Master Agent はまた、バックアップと復元のプロセス用にストレージ メディアを提供します (Cisco Unified CallManager 5.1 のテープ ドライブ)。

Cisco DRF Local

Cisco DRF Local サービスは、DRF Master Agent の主要部分として機能する Cisco DRF Local Agent をサポートします。ノード上のコンポーネントは、Cisco DRF Local Agent に登録して、障害回復フレームワークを使用します。Cisco DRF Local Agent は、Cisco DRF Master Agent から受信したコマンドを実行します。Cisco DRF Local Agent は、Cisco DRF Master Agent にステータス、ログ、およびコマンド結果を送信します。

CDR サービス

Cisco CDR Repository Manager

Cisco CDR Repository Manager サービスは、Cisco Unified CallManager データベースが含まれている最初のノード上でのみ開始および停止できます。このサービスは自動的に開始します。

Cisco CDR Agent

Cisco CDR Agent サービスは、Cisco Unified CallManager によって生成された CDR ファイルと CMR ファイルをローカル ホストから CDR リポジトリ ノードに転送し、そこで CDR Repository Manager サービスが SFTP 接続上で実行されます。

このサービスを機能させるためには、最初のノードで Cisco CallManager サービスをアクティブにし、それが動作していることを確認します。

Cisco CAR Scheduler

Cisco CAR Scheduler サービスでは、レポート生成や CDR ファイルの CAR データベースへのロードなど、CAR 関連のタスクをスケジュールできます。このサービスは自動的に開始します。

Service Activation

Cisco Unified CallManager Serviceability の [Service Activation] ウィンドウでは、複数の機能サービスをアクティブまたは非アクティブにできます。また、デフォルト サービスを選択してアクティブにできます。Cisco Unified CallManager Serviceability は、機能サービスを自動モードでアクティブにし、単一サーバ設定に基づいてサービスの依存関係を確認します。ある機能サービスをアクティブにするよう選択すると、単一サーバ設定に基づいてそのサービスに実行を依存しているサービスが他に存在する場合は、それらのサービスを選択するように Cisco Unified CallManager Serviceability によって要求されます。[Set Default] ボタンをクリックすると、Cisco Unified CallManager Serviceability は、単一サーバ設定に基づいて Cisco Unified CallManager を実行するために必要なサービスを選択します。サービスは、アクティブにすると自動的に開始します。サービスは、Control Center から開始または停止します。

Control Center

Cisco Unified CallManager Serviceability の Control Center では、クラスタ内の特定のサーバについて、一度に1つのサービスのステータスを表示し、そのサービスを開始および停止できます。これらのタスクを実行するため、Cisco Unified CallManager Serviceability には2つの [Control Center] ウィンドウが用意されています。ネットワーク サービスを開始、停止、再起動するには、[Control Center—Network Services] ウィンドウにアクセスします。機能サービスを開始、停止、再起動するには、[Control Center—Feature Services] ウィンドウにアクセスします。



ヒント

[Control Center] ウィンドウと [Service Activation] ウィンドウにナビゲートするには、[Related Links] ドロップダウン リスト ボックスと [Go] ボタンを使用します。




注意

Cisco CallManager サービスを停止すると、そのサービスが制御しているすべてのデバイスに対するコール処理も停止します。Cisco CallManager サービスを停止した場合、IP Phone から別の IP Phone へのコールは維持され、IP Phone から Media Gateway Control Protocol (MGCP) ゲートウェイに対して進行中のコールも維持されます。その他のタイプのコールはドロップされます。

サービス設定のチェックリスト

表 2-1 は、サービスのインストールと設定の手順を示しています。

表 2-1 サービス設定のチェックリスト

設定手順	手順と関連する項目
ステップ 1 Cisco Unified CallManager サーバで実行する機能サービスをアクティブにします。  (注) Cisco Unified CallManager からアップグレードしている場合は、アップグレード前に開始していたサービスが、Cisco Unified CallManager Serviceability によって自動的にアクティブにされて開始されます。	<ul style="list-style-type: none"> 機能サービス (P.2-2) 『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』の「機能サービスのアクティブ化と非アクティブ化」
ステップ 2 適切なサービス パラメータを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド Cisco Unified CallManager の管理ページの [サービスパラメータ] ウィンドウの [?] ボタン ヘルプ
ステップ 3 必要に応じて、Cisco Unified CallManager Serviceability トレース ツールを使用して問題のトラブルシューティングを行います。	<ul style="list-style-type: none"> 『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』の「トレースの設定」 『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド』の「RTMT のトレース収集とログ集中管理」

参考情報

関連項目

- Control Center (P.2-13)
- 機能サービス (P.2-2)
- ネットワーク サービス (P.2-8)

参考資料

- Cisco Unified CallManager システム ガイド
- Cisco Unified CallManager アドミニストレーション ガイド
- Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド
- Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド
- Cisco Unified CallManager トラブルシューティング ガイド